

上野の 寄り道 散歩道

第6回

「東京都美術館」

東京藝術大学がある上野は、歴史や伝統と新しい文化が交差するスポットとして、観光に訪れる人も多い。藝大のすぐ近くにも、由緒ある杜寺や老舗、意外なエピソードを秘めた穴場が目白押しだ。大学から少しだけ足を延ばして、小さな旅に出てみよう。



1 外観

前川建築の佇まいを受け継ぎつつ、ユニバーサルデザインを採り入れた改修をおこない四月一日にリニューアルオープンした。



2

ギャラリーA

エスカレーターホールから見下ろせる吹き抜けのシンプルな展示空間（公募棟地下二階）。写真は企画展「Arts & Life...生きるための家」(～九月三十日)。

3

ギャラリーC

天井の高低差により展示の変化をつけることができる（公募棟地下二階）。写真は八十六年にわたる館の歴史を振り返る企画展「東京都美術館ものがたり時代を駆けぬけた芸術家たち」(～九月三十日)。



四月一日、東京都美術館が約二年間の大規模改修工事を終え、リニューアルオープンした。一九二六(大正十五年)五月一日に開館したこの美術館は、回顧展や名作展などのさまざまな企画展や新しい美術の動向を伝える外国美術展が開催され、美術の殿堂としての役割を担ってきた。また、新作発表の場として、「上野の美術館」と親しまれている。

現在の建物(新館)は建築家・前川國男(一九〇五～八六)の設計により、一九七五(昭和五十)年三月三十一日に竣工した。前川はモダニズム建築の巨匠ル・コルビュジエに師事し、戦前・戦後を通じて日本の近代建築の歴史に大きな足跡を残した人物である。東京都美術館に程近い国立西洋美術館の本館は、ル・コルビュジエの実施設案をもとに前川と坂倉準三、吉坂隆正が設計をおこなった。その向かいに建つ東京文化会館も、前川の代表作のひとつだ。

新館のメインフロアは地下二階(ロビー階)に設定され、公募棟、企画棟、文化棟に取り巻かれたエスプラナード(遊歩道)から、地下一階の広場へ求心的に導くよう計画されている。この空間配置は、上野公園とのつながり



4
公募展示室
四つの展示室を青（第1）、黄（第2）、緑（第3）、赤（第4）で色分けして表示、誘導する。



6
ミュージアムショップ
「プラスチックエーション」をコンセプトに従来の二・五倍に拡充された（中央棟ロビー階／地下一階）。

5
エントランス
新館開業当時そのままのデザインを活かした色鮮やかな椅子がならぶ（公募棟ロビー階／地下一階）。



7
佐藤慶太郎記念アートラウンジ
東京都内の美術館を中心にした展覧会などの情報にアクセスできるインフォメーション・ラウンジ。美術館開館に寄与した実業家佐藤慶太郎の資料も展示（中央棟一階）。

8
レストラン「MUSEUM TERRACE」
南北の両方面がガラス貼り、豊かな緑と外光が注ぎ込むメインダイニング。（中央棟二階）



9
レストラン「IVORY」
東京都美術館のグランドレストランとして洋食を中心にランチやカフェを楽しむことができる。個室もある。（交流棟一階）



を求め、なおかつ館内導線をわかりやすくするよう意図されたものだという。
地下三階・地上二階建てだった建物を、地下四階・地上四階建てに改修。企画棟、公募棟、中央棟、交流棟、事務棟で構成し、企画展示室の天井高は三・二メートルから四・五メートルになった。また、エスカレーター、エレベーターを設置して利便性を高めたという。ミュージアムショップ、休憩場所や情報コーナーも拡充され、メインダイニング、洋食、カフェの三店舗が新たにオープンした。
リニューアルオープン記念として、「マウリッツハイス美術館展」が九月十七日まで開催。その後も、「メトロポリタン美術館展」（本年十月六日～二〇一三年一月四日）、「エル・グレコ展」（二〇一三年一月十九日～四月七日）など見応えがある展覧会が控えている。